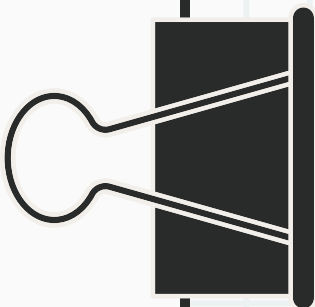


2024年10月22日

大学職員情報化研究講習会

組織全体を巻き込んだ
業務改善に向けて

7グループ



目次

01	目的の整理	05	ポイント
02	背景	06	動き方
03	改善のために	07	実現したいこと！
04	具体的な改善策		



01

目的の整理

目的と業務DXの重要性

現在進行中の答申「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について（中間まとめ）」

➡ 選ばれる大学になるためには？

➡ 本来の業務や経営戦略に時間と労力をかける！

職員：よりクリエイティブな業務

教員：学生への教育活動

自身の研究活動

経営に参画する

背景の詳細

各大学、なかなか業務DXやIRが進んでいない現実・・・

- 現状に満足している

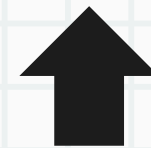
ルーチン業務に+αの業務まで負えない

- 専門部隊が存在しない(体制がない)

積極性のある職員がいないと、スピード感がでない

- 人材育成ができていない

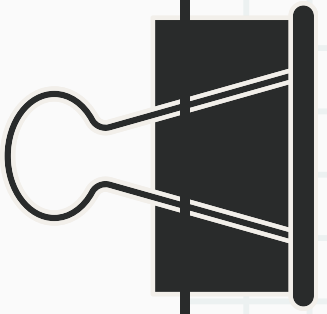
教職員のITリテラシーが平準化できていない



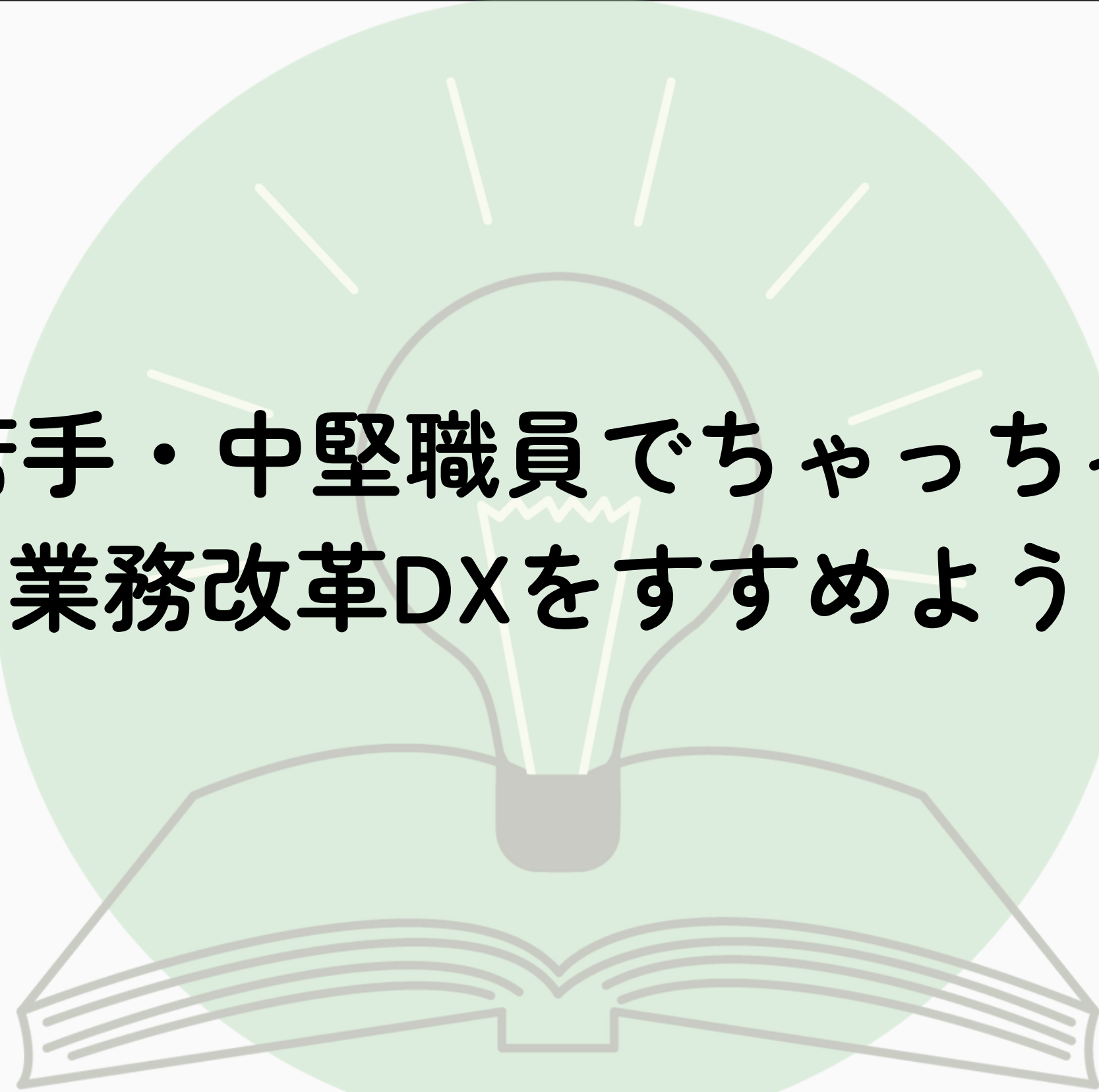
- 上層部の理解を得られていない

業務DXの重要性を理解していない？





**若手・中堅職員でちゃっっちゃか
業務改革DXをすすめよう！**





【課題】

どうやってメンバーを集める？

若手・中堅職員にインセンティブ

(案①) 組合費から少しの費用を捻出

(案②) 人事評価



03

改善のために

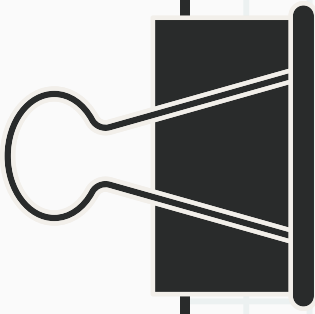
改善のために

上層部の理解を得るには？

- 費用対効果のエビデンスを提示
- 上層部にもメリット◎
- 全部署にまたがること



お金と時間を捻出する業務DXは？



03

改善のために

改善のために

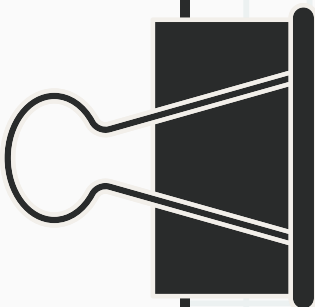
まずは業務量の可視化、見直し

ヒアリングの実施

どの業務に膨大な労力をかけているかの特定

対象：残業時間が多い部署(参考：組合資料)

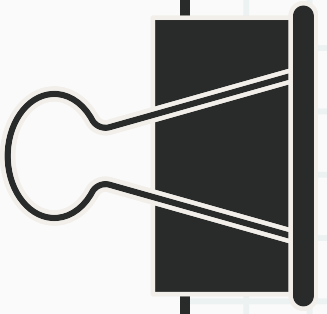
設問：今後、よりクリエイティブな業務を進めるために、
現状、あなたの部署で負荷が大きく、削減すべき
業務はなんですか？



03

ヒアリング結果（予測）

課題/問題点	改善策
紙・ハンコ文化によって発生している決裁の遅延	ワークフローシステム
入力作業など、単純作業の過多	RPA
従来型のメール・電話によるコミュニケーション	チャットツール
窓口業務	チャットボット
議事録作成	AI活用



04

具体的な改善策

提案される改善策

解決策

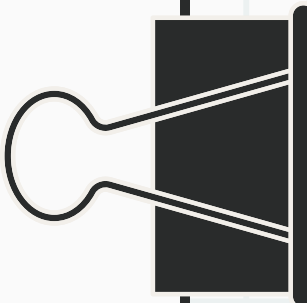
目的

効果

ワークフロー
システムの
導入

- ①申請や決裁の迅速化
- ②ペーパーレス化およびコスト削減
- ③業務プロセスの可視化
- ④監査対応の効率化など

- ・作業時間の短縮
- ・コスト削減



04

具体的な改善策

ワークフローの具体的な内容

稟議

未導入の大学

▼
東京音楽大学
神戸学院大学
大谷大学

出張・旅費申請

未導入の大学

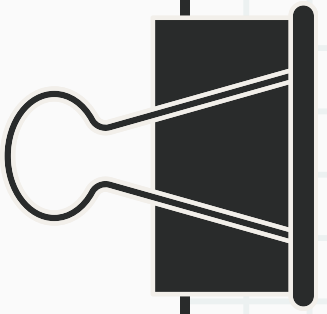
▼
大谷大学

労務管理に関する
各種申請

未導入の大学

▼
グループ7の全大学

チーム間のコラボレーションを強化し、情報共有を容易にします。リアルタイムなコミュニケーション



05

ポイント

導入による効果やメリット

作業時間のカット

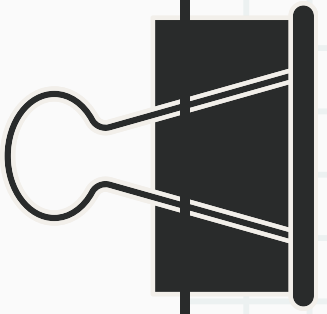
自動化や効率化された業務フローにより、作業時間の削減へ。

残業費用のカット

残業時間が減ることによって、人件費の削減へ。

人材育成

若手・中堅職員が押し進めることで、その行為そのものがキャリア形成の一環に。



Chat GPT

に聞いてみると



06

動き方

スケジュール感



①パッケージ選定

②トライアル期間（一部）

③ヒアリングの実施

↑ここまで3か月！スピーディーに！

④上層部に結果を報告（データドリブン）

⑤全学に導入

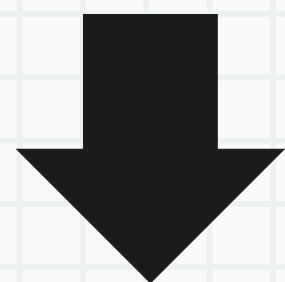


07

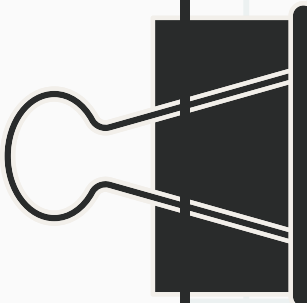
実現したいこと！

最終的に・・・

- DX推進体制の確立（起爆剤として）
- 業務効率化により、教職員が本来の業務にあたる時間の確保



学生対応の質の向上、研究活動の確保、経営戦略の立案へ！！！！



ご静聴ありがとうございました！



※キラキラした目で紙を投げているみんな